

平成 28 年度 第 3 回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：平成 28 年度第 3 回古賀市図書館協議会

日 時：平成 29 年 2 月 21 日(火)14 時～15 時 30 分

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 3 委員会室

主な議題：①事業報告

②来年度の予定について

③その他

傍聴者：0 名

出席者：橋本 由里委員 加藤 典子委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員
村山 美和子委員 渋谷 京子委員 久池井 良人委員 石丸 貴子委員
以上 8 名

欠席者：0 名

事務局：5 名

配布資料：①レジュメ

②平成 28 年度事業報告

③リーパスプラザオープン記念チラシ

会議内容：以下のとおり

1 開会のことば

(事務局) 本日は皆様お忙しい中、古賀市図書館協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。本日司会進行をさせていただきます海老名と申します。どうぞよろしくお願いたします。今日は欠席もなく皆さんお集まりいただいております。

資料の確認をさせていただきます。始めに、レジュメと図書館事業報告を 2 枚、クリップ止めさせていただいております。それからリーパスプラザ完成記念式典の御案内について、オープン記念のチラシをクリップ止めして付けさせていただいております。

それから、大変遅くなっておりますが、平成 28 年度古賀市図書館・歴史資料館要覧を緑の袋の中に入れてお配りしております。以上でございますが、ご確認いただけましたでしょうか。

本会議につきましては、会議の公開制度に基づき傍聴席を設けております。また、会議の内容につきましては、古賀市のホームページ上に公開されますので、あらかじめ御了承いただきたいと思います。

それから、発言される時には、マイクのスイッチを入れていただいておりますようよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、古賀市図書館協議会を始めたいと思います。

開会の言葉を文化課長星野よりいたします。

(課長) 皆様こんにちは。星野でございます。早いものでこの協議会も 3 回目、今年度最後となりました。寒い中、委員の皆様におかれましては皆様参加していただきありがとうございます。委員の皆様もご存じのとおり、昨年 2 月に市立図書館はリニューアルオ

ーブンをいたしました。そして8月に古賀市生涯学習センター、リーパスプラザこがとして交流館や中央公民館とつながっております。同時に、新たに定められました古賀市生涯学習センター条例に基づいてこの古賀市図書館協議会が立ち上がっているところです。実は4月8日、リーパスプラザこがのグランドオープンの式典がございます。もしお時間が許せば、ぜひ来ていただければと思っております。

市立図書館といたしましても、生涯学習センターとして市民の皆さんの身近な施設としてさらに進めていかなければならないと思っております。館がつながったことで10時まで開いている施設が交流館になっておりますので、市立図書館のあり方なども今後またいろいろ問われてくるんじゃないかろうかと思っております。

市民の皆さんの声や委員の皆様の御意見等々耳を傾けさせてもらいながら図書館を運営していかなければならないと考えております。

それでは、長くなりましたが挨拶にかえさせていただきます。第3回古賀市図書館協議会、よろしくお願いたします。

2 会長挨拶

(事務局)

続きまして、鈴木会長よりご挨拶お願いたします。

(会長)

皆さんこんにちは。福祉の理念の中に「揺りかごから墓場まで」という言葉があります。「知の宝庫」あるいは「言語宇宙」と言われる図書館もやはり幼児から高齢者までにかかわる文化施設だと思うんですね。そういう意味で、今、話がありましたように、リニューアルされた古賀市の図書館の充実を目指して、今日も協議していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。以上でございます。

3 協議

(1) 事業報告

(事務局)

続きまして、協議に入ります。ここからの協議進行につきましては、鈴木会長、それから加藤副会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(会長)

それでは今日の要項に従って進めていきますので、よろしくお願いたします。平成28年度の事業報告について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

事務局より報告をさせていただきます。平成28年度図書館事業報告をご覧いただきながら報告をさせていただきますのでよろしくお願いたします。第1回の協議会のときに8月までご報告をさせていただきましたので、本日9月からということで報告をさせていただきますと思います。

9月18日に「松本清張の世界」という内容で九州女子大学教授、荻原桂子さんを講師にお迎えしお話いただきました。北九州市小倉出身の昭和の文学の巨人といわれる松本清張とその作品について、時代背景や登場人物等の情報を交えながら、楽しく清張ワールドの魅力を伝えていただきました。講演後会場から次々と質問の手が挙がり、先生も地元でしかわからない裏情報を交えながら、丁寧に答えていただいたところです。楽しく学べた講演で43名の方においでいただいております。

10月8日には子ども1日図書館員を実施しました。1年生2名、2年生3名、4年生2名、合わせて小学校7名の応募がありまして、本の貸出し、返却などのカウンター体験、

図書館の裏側から見る図書館見学等をしております。ちょっと緊張もしていましたが、仕事体験を楽しんでくれたと思っております。

10月28日から3日間、図書館まつりを実施いたしました。今年で第22回を数えております。布の絵本の展示、ことちゃんぬりえや「読書のある風景スナップ写真の募集」、これは今年度初めて募集をいたしました。図書館まつり期間の貸出冊数を答えるような読書クイズ、図書館で廃棄した本を市民の皆さんにお譲りするブックリサイクルなどを行いました。また28日には手づくりのしおり作成、29日には親子木工教室を交流館の工芸室を使いまして行ったところです。

30日には藤田浩子さんを講師にお迎えしました。千葉から来ていただいたお話おばさんと言われている方なのですが、「ヒトは人に育てられて、人になる」という演題で話をいただきました。100名を超える方に参加していただいたところです。

いろいろなイベントを行うことで、図書館に足が向いて本を手にとっていただけるよう、職員一丸となって3日間取り組むことができました。マンネリ化しないようアイデアを出しながら、実施に努めているところです。

12月4日に「いのち輝くまちこが2016」古賀市人権のつどいで、人権センターと連携しながら今年度初めて「親子でほっこりいのちのおはなし会」を実施しております。心が暖くなる絵本、笑顔になるような本を選びまして、どうようおはなし会のPRを兼ね、ボランティアの皆さんに来ていただいて、1時間絵本の読み聞かせリレーを実施いたしました。着ぐるみのことちゃんも「おいでください」ということで、一緒に案内をしたところです。

12月10日には絵本「ぐりとぐら」の人形劇をみて絵本に出てくるカステラづくりに挑戦しております。カステラが出来上がるのが待ちきれなかったり、混ぜているタネをなめてしまったりしながら、しっかり生地がふくらんでいくのを興味津々と見て、おいしいカステラを作り焼き上げました。これからどんどん成長していく中で、カステラを見るたびに親子で楽しんだ「ぐりとぐら」のお話がよみがえってくるのかなと思っております。親子で43名の参加でした。

読書講座「海辺のカフカ」を12月18日に行いました。これは古賀市立図書館でも人気の作家であります村上春樹の代表作「海辺のカフカ」を取り上げて読み解く講座です。岡野進さんを講師に迎えて実施しております。参加が25名と少なかつたんですけれども、内容について、作家の村上春樹さんということをもう少しアピールできたらよかつたかなと思っております。

今年1月に入って、「第48回古賀市親子読書のつどい」を交流館の多目的ホールで行いました。古賀市内8つの小学校の親子読書の会員が親子で読書の楽しさを共有しながら取り組んできた劇や群読、ペープサート等の発表を行ってもらったところです。友達や家族、学校の先生にも多く来ていただきまして、313名の参加がありました。会場については、古賀市中央公民館の大ホールで今まで開催をしていたのを、交流館ができた機会に初めて会場を変えて実施したところです。

1月29日には「大人のためのおはなし会」を行いました。講師に「きりん文庫かすが」主宰の徳永明子さん、語りの会「小さなぐみの木」代表の石川文代さんをお迎えして、グリム童話や福岡県の昔話を大人の方に向けてお話をさせていただきました。人の生の声で聞く心地のよい語りのひとときを55名の参加者に楽しんでいただいたところです。

2月8日には、7月に人気でありました暮らしの講座第2弾として、「図書館でつかむ農

業のヒントその 2」を計画しまして、農文協の佐藤圭さんを再びお迎えして講座を行いました。「これからが植えどき 春夏野菜を長くたくさん収穫するコツ」、「収穫した野菜の食べ方の紹介」など、魅力的な内容で話していただきました。65名の参加がありました。

また、「大人の図書館員」を募集し、15日に実施しております。図書館のカウンター業務や、図書の整理・修理などの体験、データベースを使っての検索など、3名の方に来ていただいて体験をしていただきました。「図書館の裏側が見られて楽しかった」とか、「意外と体力を使う仕事が図書館にはあるんですね」というような感想もいただきながら、「また利用者として図書館を使わせてください」ということで終わったところです。

それから、事業ではないのですが、11月に横浜で開催された、図書館総合展に参加してまいりました。図書館マスコットキャラクター、着ぐるみの「ことちゃん」を連れていきまして、古賀市立図書館のPRをしてきたところです。図書館マスコットキャラクターグランプリでは、惜しいところではないですが、グランプリは逃しましたけれども、「着ぐるみ賞」をいただくことができております。ちなみに商品はファブリーズでした。期間中ツイッターなどで応援いただいてありがとうございました。

他の図書館のキャラクターを使った事業の展開など、参加してみているいろいろ参考になるところがあるなど感じながら帰ってきております。ここに図書館総合展のタオルがあるんですけども、キャラクターグランプリとあるんですが、ことちゃんもこの端っこのところ、ここに他のキャラクターに混じってタオルになっております。ちょっとご紹介いたします。

それから事業とは別に、「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」を策定中です。1週間前、2月14日に第4回の策定協議会を開催しまして、委員さんに本文を検討いただいたところです。第5回を3月15日に予定をしていますが、さらに内容を詰めていき、完成に近づけたいと思っています。素案ができましたら、市民の皆様にご意見を伺いながら、よりよいものにしていきたいと思っています。8月か9月頃には計画書を見ていただくことができるように努力していきたいと思っています。

さらに、2月27日より3月6日まで、約1週間の予定で図書館は蔵書点検に入ります。紛失本、傷んだ本のチェックなどを行い、市民の皆さんが気持ちよく図書館を利用できるように作業を進めていくところです。

また、大変発行が遅れましたけれども、平成28年度図書館・歴史資料館要覧を配らせていただきました。第2回の協議会での委員の皆様のお意見をいただきながら、作成することができたところです。どうもありがとうございました。さっきちょっと見てみたら、字が入っていないところがあって残念な気持ちなんですけれども、22ページ、12月10日土曜日「ぐりとぐらの人形劇をみてステラをつくろう」カ抜きになっております。すみません。それからもう1か所、28ページのたけのこ文庫の写真の下の表。こじか文庫の活動報告があるんですが、右側の上から5行目「ブラックシアター」になっていますが、「ブラックシアター」です。すみません、訂正いただければと思います。

9月からの経過報告をさせていただきます。ご協議よろしくお願いたします。

(会長)

ありがとうございました。本当に中身の濃いイベント、講座、本当に素晴らしい講師陣を呼ばれて進められたと思います。

皆さんの中にはそれぞれ参加された方、あるいは企画運営された方もいらっしゃると思

いますので、それを含めて、質問、感想、意見等を出していただければと思います。月例の行事も下の方に本当にいつも感心しているのですが、毎月着々とかこういった事業も進められているなど。古賀市ならではというところもあり、本当に感心しています。私も行きたかったところも何回か、しまったこれ行けなかったという部分もありまして、残念でございますが、とても内容の濃い事業だなと見ました。

では何か質問等ございましたらどうぞ。確認したいことでも結構です。どうぞ。

(河村委員) この事業報告の中で、図書館まつりの藤田浩子さんの読書講演会に初めて参加させていただきました。我々は在職中には同じ内容でもどうしても難しい話をするんですが、藤田さんのお話で非常にいいなあと思ったのは、生の言葉で話しかけることによって子どもは人間として健全に育つということをおっしゃって、それを具体的な方法で絵とか小道具を使って語りかけをされるんですね。ああ、こういう具合にやるんだな、もっと早くそういう方法も知っておけばよかったなど。やはり子どもを相手にして実際にいろいろ活動なさっている方のお話だと思いましたね。やはり長い実践での具体的な方法を編み出され、それを実際に子どもさん達に語りかけておられる、非常に新鮮でしたね、私にとっては。理論的な事とかきちんきちんと話をする、ポルトマンの議論でも60分か90分くらいに延長して体系的な話をするわけですが、少し出されて、実際にこういう具合に子ども達に接していくんですよと。とても私にとっては新鮮で面白かったし、こういうのがやっぱり実際の子どもの語りかけには大切なことだと、フレッシュなものを私は感じました。初めてでした。ありがとうございました。

(会長) ありがとうございます。はい、他の方どうぞ。

(渋田委員) ボランティアの立場から一つ図書館のほうにお願いなんですけども、15ページの図書館の利用案内のところの規約ですが、私が所属しています「ぐりとぐらの会」は、小学校の授業におはなし会とかで入るため、ブラックシアターやパネルシアターを借りて練習をするんですが、貸出期間が1週間と短いので、練習したらまた返して、また借りて練習というふうにしないといけないんです。もし予約とかが入っていなければ、ボランティア団体として登録しているので、その辺の融通をきかせて資料の活性化をしたらどうかなと思うんです。大型絵本とかそのパネルシアターって一般の方は持って帰ることができないですよ。なので、団体登録をして学校なり、他の場所でやる時にもうちょっと練習ができるように、その辺の規約を図書館のほうで考えてほしいと思っています。必ず1週間で返してまた返してって、やっぱり私達もボランティアでして、しょっちゅう集まってできないので、団体貸出1か月と書いてあるので、予約がない時で構わないので、30日間ってような扱いにしていただけるととても助かるなと思っていますので、考えてみてください。よろしくをお願いします。

(会長) 今の件どうですかね。ボランティア団体が集中して借りられている時期、団体の方が本当に十分できるような工夫とか。いわゆる団体登録をされた方への対応についてはどうなんでしょうかね。

(事務局) 本日に読書ボランティアの方には図書館行事等で大変お世話になっておりまして、図書館も積極的に支援していかなければいけないと思っております。貸出しの期間が決まっているんですが、なかなか融通がきかなくて御迷惑をおかけしているところではあります。柔軟な対応で今後考えさせて検討させていただければというところでもあります。結構ボランティア団体さんがたくさんいらっしゃいまして、ボランティアさんとしてお貸しするので、人によって所在がわからなくなったりというところもあります。その辺気をつけていただきながら今後検討させていただきたいと思っております。

(会長) よろしくお願ひします。他団体とか市民からの要望とか苦情などはあるんですか。

(事務局) 市民の方からは特にございません。

(会長) そっちばかり融通してということは。

(事務局) それは御理解をいただけるとは思ひます。

(会長) 他の団体との融通をこれから工夫していただけたらと思ひます。よろしくお願ひします。他にどうぞ。

(久池井委員) 事業報告にもどるんですけども、私も講座には何回か参加させていただきました。

その中から2月にありました「暮らしの講座」、これは2月8日というのは2月5日ですよね。この「暮らしの講座」は確か最初の計画では年1回の計画でしたよね。好評につき第2弾開催というところが、私はとても柔軟ですばらしいと思ひます。大体年間計画を立てると、予算の関係もあって好評でも来年度に生かしましょうとなりがちなんですけども、それを今年度中に第2弾を開催されて、しかも65名。私も行って見て多いなと思ひました。

掘り起こせばこれだけの参加者があるという事と同時に、これが全く野菜づくり講座であれば、図書館でしている意味は、大事なんですけども、図書館じゃないですもんね。私がいいなと思ひしたのは、農文協の佐藤圭さんは「私は野菜作りの専門家ではありません」とおっしゃって、ご自分が野菜づくりに詳しいわけじゃないということで、農文協から出版されている本とかDVDを使って説明されたんですね。これがなかなか具体的で良いんですね。しかも「これらのものは古賀市の図書館の中にあります」というご紹介をされた上に、さらによかったのは、終わった後に図書館の入り口に講座で使われた絵本とかがずらっと並べてありました。あれは講座に行かれていない方にとっても非常に目を引いて関心を広げるものになります。出版社の方ですから何回か本の紹介をされて、そこのところがやっぱり図書館らしさが出ている講座だなと思ひます。

こういう形で掘り起こしていけば、普段は図書館に来ないけども、そういうことだったら聞いてみたいという方が来られて、そういう資料が図書館があるんだと、現物は本当に並べてあるというふうになれば、利用が非常に増していくんじゃないかなと思ひます。

よく貸出冊数を増やそうとか、利用者の方を増やしたいというのは確かに大事なことですけども、図書館の機能として、こういう働き、図書館が橋をかける役割をしていますよということをいろいろな形でアピールすることが大事だなと思ひます。私は野菜づくりに関心があるのではなく、図書館がどんなふうにしてこの講演会をされるのかに関心があって行ったんですけども、なかなか良いことをされていると思ひました。

今、図書館のホームページでも「こんなことをしました」という過去形で報告されていますよね。お知らせだけでなく、とても良いことで、ぜひ来年度にも続けていただきたい

と思いますし、ひょっとしたらヒットする内容は野菜づくりの他にもまだあるんじゃないかなと思いました。

(会長) 私なんか野菜づくりを進めているので、たぶんそういう目で行くと思います。年内に柔軟に再び開催できるというのはなかなか難しいですね。来年度やりましょうというのはわかるんですが年度内にされるということ自体が、今ご指摘のあったようなことではないかと思います。その辺り何かコメントといいますか、この辺のいきさつとか何かございますか。

(事務局) そうですね、とても市民の方に好評で、いろいろ質問が出たり、終わった後に先生に駆け寄っていかれて聞いてあったのを見て、これだったらということで「もう一度出来ませんか」とお願いしました。図書館では農文協のデータベース「ルーラル電子図書館」を入れていて、その中に農文協さんが発行されている農業の雑誌の中身とかも入っています。そういう関係から、もう1回来ても良いというお返事をいただきまして実施を進めたところです。こちらとしても喜んでいただけてよかったなと思っていますところ。

(会長) ありがとうございます。次年度も同じ事でなくて結構ですので、他にも今言われたように、別のジャンルの工夫も含めて。佐藤さんが農業のプロじゃないと今おっしゃいましたよね。でも、質問がそういった形で出てくるということの発想の良さを大事にしていくべきじゃないかなと思いますね。

他にございましたら。村山委員さんどうぞ。

(村山委員) 私は1月22日の「古賀市の親子読書のつどい」に参加させていただきました。今までつどいが毎年行われていることについては知っておりましたけれども、実際に自分が参加したのは初めてでございました。参加しまして入口でびっくりしたのは、ずらっとカメラを構えておられる親御さんがいらっしゃって、これは発表会と一緒にだと思って見ておりました。実際にその発表の内容を見て本当に痛いほどわかったのは、練習時間や活動時間が少ない中で発表をこなさなければならないということで、とにかくいろいろな物をお作りになって大変だっただろうなというような感じを受けました。

しかしながら、実践発表という事で考えますと、内容としては単純に劇の発表等で終わっている点は、奥の深さが足りないかなというような感じも持ちました。劇の道具づくりも楽しいかと思いますが、内容の充実を図らないと今後一層衰退していくんじゃないかなというような感じを受けました。

もう一つ気になりましたのが、自分のお子さんの発表が終わるとさっと帰っていかれる様子がありまして、私の横の横に座っていたお父様が「うん、うちが1番良かった」って言ってすぐ帰られました。最後まで見て帰られればいいのに、皆頑張っているのにと思いましたが、やはり自分のお子さんが演技なさっている姿を、ご覧になってそれで安心してお帰りになったのかなと思いましたが、やはりこれだけ皆さんでしっかり準備して、長い間続けておられる親子読書会の発表会ですから、道具の準備あたりにかける時間をもっと内容の充実に向けられたら素晴らしいだろうというような感想を持ちました。

ちょっと失礼かもしれませんが、意見として申し上げたいと思います。

(会長) 発表を競い合うわけではないですからね。今言われたその発表した劇、そこからさらにその内容の充実をというのは例えばどういうことを考えますかね。

(村山委員) 実践発表と聞きましたので、例えば親子読書会の取組の様子がわかるような発表にしたり、劇のようなものでなくても調べたものの発表というのもありましょ。一律に劇、群読でなくて、じゃあ今年のうちには劇をして、じゃあお宅は何をしてということがあれば、2時間ぐらいございますので、長い間退屈もせずに参加できるんじゃないかと思います。
やはり内容の充実を図ってレベルアップを図ることがこれから先衰退せずに成長していく道だと私は思いまして、失礼ながら申し上げました。

(会長) 意見は言っていただければと思います。私も昨年参加したんですが、発表について今言われたことはつまり多彩に、一律に劇とかの発表をするだけじゃなく、自分達がこういう活動して来たんだよということ、あるいはとてもためになった、学んだ、あるいはこんなふうになってきたという、子ども達の変容ぶりだとか別の親御さんとか指導者かわかりませんが、そういう方が話してもいいし、いろいろなやり方があるんじゃないかという意味でしょうね。

各親子読書会の入口の発表の紙は今年もあったんですか。模造紙で発表があるでしょう。

(事務局) はい、1校だけステージ発表がなかったものですから、掲示発表という形で後ろの方にさせていただきます。

(会長) そういったこともありますけども、お知らせしながら今年はこんなふうにやってみようという工夫ができるという事ですかね。

(事務局) ご意見をありがとうございました。内容の充実というところで、打ち合わせの中でも、学校の司書の皆さん、読書会の代表の方にもお伝えしていきたいと思っております。

つどいでは劇などの発表のほかに、読書体験発表という作文の発表もしております。親子でこういうふうに関わった、こんな本を読みました、こんなことができましたという作文発表をプログラムの初めのうちにしております。

また、それぞれの学校が取り組んでいること、発表できるところでの中身を用意していただいてってということではありますけれども、その発表の前に、司会から、それぞれの読書会が通常こんな活動をしていますという案内もありますので、その辺をもう少し充実していけたらいいのかなと思っておりました。

昨年度は鈴木会長が言われましたように、会長を講師にお迎えまして、読書の大切さ、親子で一緒に読むということの大切さについてお話もいただいているところです。そういうところも工夫しながら、これから先も考えていけたらいいのかなと思っております。御意見ありがとうございました。

(渋谷委員) 今言われた親子読書会ですけど、私も子どもが小さい頃から入っていて、ずっとしてい

たんです。東小は活動を昔は土曜日に行っていたんです。やっぱり働いているお母さん達が来られないから、土曜日に保護者と子どもと司書の先生と一緒にこの活動をしていました。

ところが今年、司書が嘱託になってから、土曜日は使わないでくださいって言われたって私は聞いたんです。そうだと参加できないし、働いていないお母さんと子どもだけのものになってしまっています。今日は教育部長さんも来られているので、勤務時間の融通も考えてもらわないと、今言ったような内容の充実にならないと思います。

子どもにとってこの体験ってすごく良いと思うんですね。あんな大きなステージで発表することはなかなか無いので度胸もつくし、1年から6年までするとたいがいものになってきたのを見てきています。それを考えると、内容も充実させるためには曜日の設定も柔軟に考えて欲しいと思います。せっかくこの親子読書会は古賀独自で、福岡県が解散しても古賀独自で何年もしていますよね。だからそれを続けるためにも、その辺は柔軟に取り組めるように体制を整えてほしいなと思います。以上です。

(会長) 活動の曜日、時間の柔軟性といいますか、そういったご意見ですが、土曜日開催っていうのは他にしているんですかね。

(副会長) 今年度はしていませんよね。

(会長) 以前はしていたということですかね。働く保護者のことを考えるとそういったこともできるだろうか、あるいはしていただけないだろうかということも今意見として出ておりますが。ちょっとすぐ、これについてコメントするわけにはいかんですかね。

(副会長) 当事者として、子どもが幼い時には保護者側、そして自分が仕事しだしてからは小学校の図書館司書として親子読書会にずっと関わってきました。

その中で自分が勤務した学校では土曜日に開催していました。土曜日開催することで、参加できる親御さんがいるというのはメリットだと思いますが、嘱託の立場である自分たちが土曜日に働いていかなきゃいけないということは、学校の体制としてどうなのかなという疑問がありつつ、いつも管理職の校長先生などに事前に出ますということは報告するんですけども、結果的にたいてい土曜日に自分以外の教職員の先生方が出勤されているので何とかやってこられた気がします。その辺が非常に、課題だなと思っています。

自分が保護者のときは、火曜日の夕方活動日でした。その時は、働いている方がちょっと遅れてこられたりそういうこともありましたけれども、それなりに来れる親御さんと一緒に、活動を自分が保護者のときはしていたなと、思い出したらそんな感じでした。来れない保護者の方に関しては、子どもに「おうちに帰ってお母さんとこれをしてね」とやることを手渡されたり、そんなふうに工夫されていたように思います。

親子読書の問題は非常に悩ましいところがあって、働くお母さんが本当に増えているんですけども、取組自体は私は本当に福岡県下でも古賀市ぐらいだと思うんです、やっているのは。ですからこれをなくしてほしいなという思いは非常にあります。

それに成人した娘なんですけれども、やはり親子読書で劇をした感動っていうのが今も残っていて、それが今の自信につながっているということを考えたら、発表の場は、一つの成果ではありますけれども、大切だったのはそこに至るプロセスというか、親子でいろ

いろ話し合ったりしながら、物をつくったりする時間がとっても貴重だったと思います。

そういう時間をより多くの親子の方々に体験してもらいたいという気持ちは、本当にありますけれども、時間がない中でどうやっていくかっていうのが今後の工夫のしどころかなと思います。すみません、うまく言えなくて。

(会長) ありがとうございます。親子読書を今後続けるためにいろいろな課題はありますが、学校や先生方のお力添えもいただかなくちゃいかんし、しかし一方ではそういった制約もありますから、簡単にいかないところですが。ちょっとこういう話が出たということで、ここについては、この程度にしておきましょう。はい、ほかにどうぞ。

(石丸委員) さっき藤田さんの講演会についてお話しいただいて思ったことです。私も藤田浩子さんの講演会に伺いました。お子さんを連れてこられている方が少し参加されていて、小さい子たち向けにもおはなし会をされていました。私は読書ボランティアの立場として藤田さんのお話を伺いたいと思ったので行ったんですけども、小さなお子さんをお持ちのお母さん方が聞かれてもきっとよかったんじゃないかなと思いました。それを思うと、案内の場所が図書館に来る人を対象に案内するだけでなく、小さいお子さんをお持ちのような方がいらっしゃる所への案内が必要と思いました。

さっき村上春樹の講座でアピールが足りなかったんじゃないかとおっしゃいました。村上春樹と言ったらハルキストっていう人がいるぐらいですからきっと好きな人はいると思います。例えば大学生や高校生に向けて案内をするとか、SNS 等を使って周知すると村上春樹という文字が検索でヒットして興味を引いたりというような手法もあると思います。せっかくすごく良い内容をされているのに案内がなかなか伝わらなくて。人が多ければいいというわけではないでしょうけれども、後から行きたかったなという人がきっとあると思います。周知の方法の工夫も、課を越えていろいろな方面に目を向けてしていかれるともったいなくないんじゃないかなと思いました。

(会長) ありがとうございます。

(事務局) 周知の方法について、今から工夫が図書館としても必要だと思っております。どういふところにご案内をするか、広めていくにはどうしたらいいかですね。

今年からになりますけれども、教育委員会のフェイスブックというのも、今度立ち上がっておりますので、その中でもお知らせをしていきたいと思っておりますし、図書館のホームページの中でも、さっき言われましたように案内、それから報告というところでもアピールして載せていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。また、考へていきたいと思ひます。ありがとうございます。

(会長) アピール、PR ですね。例えば「ブックトーク」というやり方もあるでしょうけど、学生の授業の中で、自分が読んだ本を皆に伝えていく「ビブリオバトル」を授業の中に入れ込んでいくと、最初は何か言っているけど、実際やってみたらものすごく生き生きして、ぜひ紹介してこれを皆にこれを読んで欲しいと云って、その日の授業が楽しくて、若い世代、学生たち、あの年代というのはこういうふうに乗るんだと思ひて感心しました。

古賀市の子ども達や大人達、その間の青年たち、若い人達を入れ込んでいくと結構のると思うんですね。そういう手法というのは、市の図書館でもやっておもしろいんじゃないかという気がします。つけ加えです。他にどうぞ。

(久池井委員)

ビブリオバトル、確かに今若い人向けに実践されていますね。

この間、村上春樹の講演会も実は若い人の姿も何人か見えました。これは大学の先生が講師をされていて、その関係で学生さんが来たというところがありますが、逆にそういうつながりも大事だと思います。講演会によっては、大学の先生がいらっしゃる、呼びかけによって若い人が来ると。若い人が多くなると行ってみようかなと。年配の人ばかりだと若い人は行きにくいという雰囲気もあります。そういう発信の仕方も大事かだと思います。

PRの仕方なんですが、私は村上春樹は少し苦手であり読んでいなかったんですよ。でも講演会に行ってみたいなと思ったんですね。しかも「海辺のカフカ」とはっきり作品まで指定されてありましたので、読まないといけない。どうしようかなと思った時に、古賀市役所に印鑑証明を取りに行ったんですよ。待っている間に掲示板に図書館で「海辺のカフカ」の講座がありますと流れましてね。なかなか上手にPRされていると思ってそれで決心したわけじゃないですが、やっぱり行ってみようと思いました。私自身もそれをきっかけに本を上下読みました。

まとまった文章を読む経験が少なくなつたと言われます。どうしてもインターネットやツイッターは短い文でやりとりしますので、長い文章を読むというのは、子どもも大事ですが、子どもに言う前に大人も大事であって、青少年はさらに大事だと思いますから、やっぱりさまざまな呼びかけで、今いらっしゃっていない方、また関心が無い方にもアピールする手立てがあるんじゃないかと思います。若者はつながりがあれば来ると思います。第1歩の敷居が高いんですね。それをちょっと感じました。

(会長)

何か市役所でお知らせしているんですか。

(事務局)

市役所の市民国保課の呼出窓口の前に電光掲示板があつて、情報がずーっと流れていますので、図書館のPRをしていただいているようです。

(久池井委員)

ちょうど私が行ったときに流れたんですよ。ぜひ図書館内だけでなくですね。

(会長)

ほかにございましたら。

(副会長)

事業報告なんですけれども、平成28年度には高齢者の外出促進事業のマークがついてないんですけど、実施されたんですよ。

(事務局)

はい、実施しております。ここには書いておりませんが、例えば第2土曜日に実施しております名画会でありますとか、図書館まつりのことちゃんぬりえとか、風景スナップ写真募集、あとしおりづくりとかですね。

(副会長)

しおりづくりやことちゃんぬりえも良いのかもしれないんですけども、外出促進事業

はすごく参加者が多くて有効だと思うので、高齢の方が本に実際につながるようなイベント、例えば講演会や大人のためのおはなし会の時に活用したほうがより良いのではないかと思います。

それと図書館まつりのときは、私は本につながるイベントをしてほしいなと思っています。さっき鈴木先生言われたように、ビブリオバトルとか読書会とかがあると本当にいろいろな世代の方の交流ができて有効だと思います。以上です。

(会長) ほかに。いいですか。

(事務局) ありがとうございます。大人のためのおはなし会など、本に直接かかわるところでの高齢者促進事業ということなのですが、行事の日程を前もって申請して、シールを準備するような形になっていまして、早くから計画ができていたらよかったですけれども、日にち、講師の方の都合であったり、いろいろなことで都合がつきませんで、間に合っておりません。なるべく早く計画を立てながら来ていただけるように来年度は計画したいなと思っております。

それから、先ほどからビブリオバトルの話もたくさん出ておりますけれども、来年度は計画をしたいなと考えているところです。細かいところはまだ決めておりませんが、何か参考になるところがありましたら教えていただければありがたいなと思っております。以上です。

(会長) はい。ありがとうございました。以上で事業報告については終わります。

先ほど横浜での図書館総合展でのことちゃんですね。私はことちゃんは全国的にもめずらしいことだとおもったんですけど実はたくさんあるんですね。びっくりしました。ありがとうございました。

(2) 来年度の予定について

(会長) 次の件について進めましょうか。それでは平成 29 年度の取組、事業の予定についてご説明をお願いします。

(事務局) はい。平成 29 年度の取組について説明をさせていただきたいと思います。先ほど課長のほうからもお話がありましたけれども、リーパスプラザこがの駐車場が 2 月 15 日から開放ということになりまして全体が完成しております。

まだ一部、古賀竟成館高校側の入口が 3 月いっぱいかかるということですが、4 月になれば通れるという話を聞いております。それでリーパスプラザグランドオープン行事というのが 4 月 8 日に開催される予定です。10 時より式典ということで、委員の皆様にも御案内をしておりですが、3 時まで、交流館を中心にいろいろなイベントが行われることになっております。チラシも一緒にお配りしておりますけれども、下のほう若干変更になるところもあるようですので、資料は参考としてご覧いただけたらと思っております。これから行政区などを通じて各家庭にも配布されるということ聞いております。式典への御案内もさせていただいておりますので、どうぞ、おいでいただきますようよろしくお願いします。図書館では、この日は土曜日ですので、どうようおはなし

会、それから名画会の実施に加えて、ことちゃんの原画展を実施したいと考えております。それから、着ぐるみのことちゃんもイベント会場にあちこちに登場する予定にしております。

来年度につきましては、市民の皆様のニーズに対応した図書館サービスを行っていきたいと考えております。今年度取組を始めましたセカンドブックや雑誌スポンサーなどの充実、あるいは読書、文学だけではなく、今年度好評いただきました先ほどから出ております暮らしの講座は、野菜づくりに加えまして、東医療センターのがん支援センターと連携した講座も、来年予定しておるところです。それから御意見をいただきました川柳の講座でありますとか、先ほどからどんどん出てますビブリオバトルなどの取組も考えているところではあります。

さらに、学校図書館との連携につきましては、小学1年生への読書ノート配布も来年度引き続き実施してまいりますし、また、地域開放における学校図書館との連携、子どもの学習支援など、引き続き学校教育課等と連携しながら進めてまいりたいと思っております。

また、来年度より「古賀市まちづくり出前講座」というのも実施したいと考えております。現在「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」の策定に取り組んでおりますけれども、推進していく一つの方策として、メニューに入れたいと考えております。メニューとしては、「子どもおはなし会」としまして、読書の楽しさ大切さを伝えますということで、絵本の読み聞かせや本の紹介など、手遊びを含めたところで行っていきなさいなと思っております。図書館での事業、それから取組を市民の皆さんに知っていただいて理解を深めていただけたらなと思っております。

さらに昨年度からは、取組の一つとして挙げております郷土資料、行政資料の資料充実と同時に、レファレンスサービスの充実も図っていきなさいなと思っております。

それから、来年度行事につきまして、準備を進めている事業につきまして、お知らせをいたします。

子ども読書の日イベントということになりますけれども、4月23日が子ども読書の日となりますので、図書館でも4月22日23日両日に計画をしております。大人が子どもの読書活動について関心を持ち、理解を深められるように、また子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高められるようにということで設定した日ですので、それを考えながら実施をしていきなさいなと思っております。来年度は第59回子どもの読書週間の標語が「小さな本の大きな世界」ということになっております。子ども達がすばらしい本と出会い、たくさんの本を楽しめるように、楽しいイベントの開催を考えております。まず、4月22日には、講談社の全国訪問おはなし隊ということで、楽しいお話の本をたくさん載せて本のキャラバンカーが図書館にやってきます。誰でもキャラバンカーの中に行って本を選んできて、外でシートの上で自由に引いて本を読む、そしてその後はおはなし会を実施していただきます。それから、2日目の4月23日には、「初めての子ども落語」ということでアマチュア落語家の粗忽家酔書さんを図書館にお呼びします。落語、そして紙切りもされるということですので、宗像ユリックスで日曜百円寄席をされている方ですが、60名の親子さんを対象として考えています。その他にも、本の福袋を作りまして、図書館員のおすすめの本を3冊セットにして子どもさんに貸出しできるように考えたりということも考えております。その他はまた、少しずつ充実するようなことを考えていきなさいなと思っております。以

上です。

(会長)

口頭ですけども、来年度の事業の予定についてざっと説明いただきました。平成 29 年度のプリントはありますか。

(事務局)

来年度になりましたら、きちんとしたものを提示できるかと思います。まだ予算のほうもきちんと確定しておりませんので、今日は口頭のほうでさせていただいております。

(会長)

では大体その方向でされるということについて、何かご質問、ご意見等ありましたら。

(渋田委員)

来年度以降の事業についてです。

今図書館事業報告にあったように、図書館では赤ちゃんとか子どもとかのおはなし会はとても充実していると思うんです。

でももう 1 つの会議の時も言われたように、絵本から児童書に行くのがどうしてもスムーズにいかないということが多くて、高校生でも何読んだらいいかわかりませんって高校の先生が言われていました。

幼児向けのおはなし会ばかりじゃなく、月例行事の中で、夏休みや冬休みの前に、ブックトークを図書館の方でもらって、子どものためにこういう本を読んだらっていうブックトーク、児童書に対する事業が足りないと思うので、そこを次年度以降考えてもらえたらすごくいいんじゃないかと思います。

確かに「よい絵本」とか今年の読書のチラシを貼ってありますけど、それじゃ子どもはなかなか手にとりません。図書館の臨時職員の方も含めてこれだけ 20 人弱いらっしゃるので、ブックトークを次年度以降は考えて事業の一つとしていただけたら、とても古賀の読書率も上がっていくんじゃないかなと思います。

また、今は各小学校に一般市民が来ていいようになっているので、そちらの方にも出向いてブックトークなどをしていけば、山手の方の子どもだってここまで来なくてもこんな本があると紹介してもらったら読んでいくと思うし、大人の方もそれに加えて大人のための本を紹介したら読もうかなという気になると思うので、その辺の事業についても考えてほしいと思います。

それともう一つ、さっき星野課長さんからの挨拶の時言われていましたけど、開館時間ですね。隣の福津市は元津屋崎町舎のところに図書館を 7 月 1 日にオープンされます。その図書館は指定管理者制度なんですけど、オープン時間が 11 時から夜の 9 時までだそうです。そこも歴史資料館が 1 階に入っていて、カメラアというホールもありますし、言うならば古賀の状態と一緒になっています。分館が時間をずらすことによって市民が福津の図書館が閉まったらカメラアの方に行くということもできると思うので、ゆくゆくは何か古賀でもそういうことを考えられると図書館がとても充実していいんじゃないかなって思います。いろいろな事業発掘も大変ですけど、そういうところもゆくゆくは考えていただけたらいいなと思っています。以上です。

(会長)

ありがとうございました。最後のところは職員の勤務体系のこととかいろいろ絡んできますので、簡単にはいかないかもしれませんが、そういったことも一つの御意見という

ことだと思えます。

先ほど言われたブックトークとか読み聞かせ、読み聞かせは言われなかったかもしれませんが、各学校でも進めていらっしゃるんですね。そこは大事だと思うんですが、ただ、今言われているように、「まちづくり出前講座」とかさっきいわれた、そういうようなことでもいいですけど、市民図書館の司書さんのブックトークというのは上手です。宗像市の図書館の司書の方のを聞くんですけど、やっぱり上手ですね。上手というのは、本をたくさん知っていらっしゃるんです。ブックトークはまさに本の紹介ですので、そういう意味で知っていらっしゃるんです。ですから、そういう司書の方は学校に行かれるとき、あるいは出前でもいいですけど、そういった形でブックトークを進めていくという手もあると思うんですね。

学校の先生方もブックトークされますよ。担任の先生方もそうですけど、いわゆる学校司書さんのブックトーク、あるいは司書教諭のブックトークもあるんですけど、こういう市民図書館の司書の方のブックトークというのはまたちょっと別におもしろいですね。知っていらっしゃるからね。なのでそれをぜひ活用していただけると、事業の中に入ってくるといういいなというのは今聞いていて思いましたね。

(事務局)

ブックトークをしたらどうかということでご意見をいただいております。図書館では来年度、夏休みの子供達読書をぜひ応援したいということを考えておまして、どうおはなし会、小さい子のおはなし会は本当に小学生よりも小さいお子さんがたくさん来られるので小学生に来てほしいということで、小学生向けの小学生限定のおはなし会をしたいと考えております。何回かそれができたらいいなと思っておりますので、まずはそこを設定して少しずつ本の紹介等できていったらいいなと考えております。

また、小学校向けの子どものさんのイベントとして夏休みにはちょっとラジオ作り講座とか、歴史資料館と連携しまして、ナイトミュージアムアンドライブラリーということで、去年もイベントがありましたけれども、今年もそれを実施したいということで考えているところです。

(会長)

ほかにご質問は。課長さんどうぞ。

(課長)

現在、古賀市といたしましては御存じのとおり図書館の指定管理はしておりません。やはり時代の中で、近隣自治体でそういった指定管理でというところも増えてきているのも事実でございます。

古賀市といたしましては、指定管理をせずに直営でという形で今は進んでおりますが、今後やはり状況を見ながら、検討すべきところはし、いろいろな自治体の状況を確認しながらかと思えます。

指定管理がメリットばかりかということ、やはりデメリットもあると聞いております。ただ、開館時間につきましてはやはりメリットもあるだろうと当然思っております。そういったこともお時間をいただきながら、情報をいただきながら話し合っ、実際例えばやろうと言っても役所でございます。2年3年、しっかり時間をかけてということになりますので、そこはいろいろな情報をいただきながら、良いところを私どもも得たいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

(河村委員)

河村です。今、学校の児童生徒さんに対する読書活動のプログラムについて、海老名係長からお話がありました。それで学校がいろいろ大変だということを思い浮かべながら伺っていました。

今度、学習指導要領が改訂になって、質・量ともに増やすというなかで、私達は当然のことながら自分の置かれている立場から物を考えていますが、実際子ども達はものすごく忙しい。もう一つの会議のときにも高校の先生が現場がどんなに大変なのかというのをおっしゃっていましたよね。

私は思うんですが、例えば子どもの読書活動でも、4月5月6月という普通のペースでというよりはむしろ、夏なら夏、春なら春という、ある程度現実的に子どもさんとしても本に向かえる余裕のあるような期間に、夏の期間に2回3回やるとか、そういうことも作戦として必要なんじゃないか。5月6月と普通のときにもやるのが現実的に果たして子どもさんに日常生活の中でそんなゆとりがあるのかなという感じを持つんですね。

我々自分の置かれているこう状況の中から物を当然考えるわけで、それはおかしくないことなんだけれども、一方ではその実際の実態を思い浮かばないところがありますよね。

実際の子どもの立場になったら本当に毎日が大変で、それに塾に行つて云々ということだったら、本当に逆に言えばやっぱり夏春を集中的に上手に活用して。

もういろいろなプログラムがあるんだから、これも良い、これも良い。図書館自身も子どもさん自身もたくさんある意味ありすぎるようなところがあるから、それを上手に効率的効果的に組み込むような、アイデアというか、視野というか取り組み方が必要なのではないか、それをちょっと感じました。以上です。

(会長)

はい、橋本委員さん。

(橋本委員)

貴重なご提言をいただいたと思います。2020年度から完全実施ということで、今公開された中で、二つの点にすごく着目いたしました。先般2月15日の各社の新聞に出ておりました。まず1点は、今まで以上に、子ども達に言語感覚、語彙の量を増やさないといけないということでしたが、私もすごくそれを感じておりました。

それで、今まで以上に読書センターとしての機能を生かしていくことと、各学年どんな語彙を増やすのかということに着眼して、国語科の後の読書活動という位置付けを明確にしたいと考えております。そういう意味で今図書館のほうで夏休みの前の読書を応援したいという、今いただいたことは非常にありがたいなと思っていますところですよ。

もう1点は新聞を活用した情報処理能力ということが出ておりました。実は、古賀市内の学校には、一般紙が5紙、子ども新聞が1紙、毎朝学校に届いております。実際に、新聞の見出しが同じ事実でも記者の着眼点によって違う異なった視点で紹介されるんだという教材が5年生の国語の教科書に載っております。

教科書の教材にも、朝刊、新聞を比較した記事が載っておりますので、今、実は6年生でも新聞を比較したり、子ども新聞を一か月分取っていて、その感想を書いたりするようなことで、今年初めて、朝日新聞だったと思いますけれども新聞コンクールというのに

も、実際自分が新聞を作って出版するような取組を始めているところです。

今ちょうど年間指導計画を作っておりますので、語彙力を育てるための読書センターとしての機能と、もう1点は、前回の会議でもおっしゃっていましたが、鵜呑みにしないで、ある程度客観的な立場で新聞等の比較をしていくということ、位置付けたいなと思っております。

そしてもう一つやはり今学校の図書館を開くということで、東小の売りは1か月、1回に5冊借りられますよということで、前回の会議でも申し上げました。幼稚園、今度小学校に入ってくるお母さん方がその日のうちに、たくさん図書カード作っていただきました。図書館からブックトークに来ていただくようなイベントを各小学校でやりますよっていうふうにしたら、さっきの親子読書ですね。そういうことも含めて、楽しいだろうなと思うような思いを持っているところです。8小学校のどこか一つやればまた広がっていくということで、一斉に8小学校は無理かもしれないんですけど、そういう役割を古賀東小学校は担っていくことによって、他校にも広げていきたいなという強い思いを持って、29年度の取組ということでタグを組ませていただけたらと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。ほかに何か。どうぞ。

(久池井委員)

平成29年度の計画を立てられる時に、市民のニーズに対応してということになると思いますが、平成28年度はリーパズプラザの交流館が出来たことは非常に大きいと思うんですね。その事によって、来館者を含めて、図書館の利用する方々のニーズにいろいろな変化があったのかどうか、どんなふうな変化があったのか教えていただきたいんですけど。

(会長)

はい、お願いします。

(館長)

先ほども言いましたように、駐車場が全部出来上がったのが今年の2月15日です。昨年の2月1日オープンした後は期待はしてはたんですけど、駐車場の狭さとかそういうこともありまして、やはり余り来館者の伸びが芳しくなかったというところがあります。

しかしながら、交流会の中でさまざまなイベントがされたときにはたくさんの来館者が来られるときがあります。1日の来館者が1000人を越えて、1100、1200人来られるときもあります。イベントがないときはそれほどでもありませんけども。今のところ、平日500から600人程度の来館者ということになります。

今後、駐車場もきれいに整備されまして、またグランドオープンもやりますので、その後、これから先の図書館の利用者がどのような変化をしていくのか見ていきたいと思えますし、またできるだけ利用者が増えるように、イベント等も工夫しながら図書館に来やすい、来てみたいと思われるような図書館になるように工夫していきたいと思っております。

(事務局)

続けてよろしいでしょうか。利用者数、入館者数に関しましては、それほど増えたということはないんですけども、8月に交流館ができて、図書館の新規登録者が今年はずっと増えております。だいたい1か月150人ぐらいだったのが、8月は200人を超える登録を数えました。貸出数とか入館者数はちょっとどうかと思うんですけども、登録される方は、今年は増えているかなと思っております。

(会長)

まず登録というところが大事なんですよね。ありがとうございました。ほかに何かございますか。

(副会長)

1点だけすみません。キャラバンカーですけれども、来るのは図書館のみで今から変更とかは無理なんですか。キャラバンカーのメリットってどこにでも行けることなんですけれども、図書館にわざわざ来るよりも、図書館から遠いところにキャラバンカーが行くのが1番メリットが大きいと思うんです。図書館からの遠隔地で、今年から作った読書ノートを配布して、どうぞ図書館に来てくださってというふうにPRしたりとかすることが1番のメリットだと思うんです。

多分あちらの先方の都合もあるので今から変更できないと思いますけれど、事業をするメリットって何かを考えてやっていただけたらなと思います。

(会長)

どうでしょうか。

(事務局)

そうですね、図書館以外のところに行けるのかどうなのかというところとか、図書館行事と合わせたようなことと一緒に活用できるのかとかいうところは、確認ができませんので、ちょっと答えられないんですけれども、2年に1回、おはなし隊は福岡県で実施しておりますので、また来られた時に確認しながらやっていけたらいいなと思っております。ありがとうございます。

(会長)

よろしいですかね。いいですかね。以上で予定していたところは終わりたいと思います。事業報告あるいは来年度の方向性などを協議できたんじゃないかなと思います。大変いろいろな意見、前向きな積極的な意見をいただいたことに感謝しています。

(3) その他

(会長)

ではその他で、特にそれ以外のことで何か、関係すること、皆さんのほうからありましたら、これをぜひということがありましたら受けたいと思いますが、よろしいですかね。それでは事務局のほうで今回のことを含めてご説明提案をお願いします。

(事務局)

1点目に次回会議の予定です。5月下旬にお願いしたいなと思っているんですけれども。この曜日がちょっと都合が悪いとかこの曜日にしてほしいというご希望がありましたらお願いいたします。

(会長)

それでは5月の後半下旬のほうで土日月はだめですね。火曜日から金曜日について、この曜日がちょっとまずいとか。午後ですよ。時間的には同じですよ。

(事務局)

5月の後半頃、午後に1回実施できたらいいかなと思います。

(会長)

21日の週。火曜日23日25日26日そのあたり。都合の悪い日、今まだわからないと思うんですが、ご都合が悪い曜日を言っていただければ。

またわからない所もあるかなと思います。

(事務局) そしたら、5月の後半ということで、また日程調整のほうさせていただきます。年度が変わりますので、御予定とかも難しいかなと思いますので、また日程調整のほうをさせていただきますたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それからもう1点よろしいでしょうか。会議録公開に先駆けまして、委員さんに今回も校正のお願いをしたいと思っております。今回は、加藤委員さんそれから渋谷会員さんをお願いしたいと思っております。会議録ができましたらお手元にお届けしますので、校正の方よろしくお願ひします。署名と一緒に返していただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(会長) 会議録の確認の方、すみませんがお二人方お願いしたいと思ひます。大変でございますけれどもよろしくお願ひします。

以上で予定した議題が終わりましたけれども、よろしいですかね。ここまでにしたと思ひます。おつかれさまでした。そして、事務局のほうにお渡しします。

4 閉会の言葉

(事務局) 鈴木会長、そして加藤副会長、進行の方ありがとうございました。それでは、閉会の言葉を教育委員会教育部長の清水がいたします。

(部長) 委員の皆様方、今回もいろいろな意見やアイデアをいただきましてありがとうございました。

常々私、いろいろな会議に参加しておりますけれども、このように活発に意見が出る会議はありません。

諸先輩方いらっしゃる中、大変失礼ですけれども、やはりこういった意見を出していただけるっていうのは、御自身のお考えを瞬時にまとめ、先ほど語彙の話もありましたけれども、いろいろな表現方法を用いていらっしゃるっていうのは、読書のなせる技ではないかなっていうふうに思っております。

さすが読書のことをお話しただけの会議だなあというふうに思っております。

今後も今日いただいた意見をそのままというふうには、いろいろな各所の調整がありますのでできないかもしれませんけれども、できる限り、読書が進んでいくように、目標に掲げてできるだけ事業に反映させてまいりたいと思ひます。

本日はどうもありがとうございました。